第2号 園 発 行 北海道江州市西野幌582 印刷所 凸版印刷株式会社 は農用地の開発、土地基盤の整 代に突入し つつある 点に 注目 文 ければなりません。このために 高生産な体質に早急に改善し じての 高生産大規模経営 し、わが国の農業構造を高能率 資本整備の高度化などを通

ばならないと言う、

ならないと言う、きびしい時いで国民の需要に応えなけれ

基地として国家的使命を担って料基盤を持つ北海道が食糧供給 る強力な施策が必要であ 特に酪農に 流通機構の近代化を促進 ついては広大な飼 h

北海道農業協同組合中央会会長

潰する危機に直面しているとも

月に農林省が発表した牛乳と乳

製品の長期需給見通しによる

と、生産性の向上を図るために

は酪農金融制度の抜本的な改善

れば日本酪農は

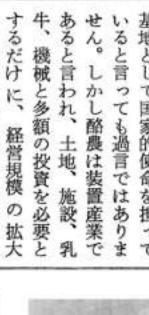
にあります。

昭和四十三年十

いえます。この

水準と

は、



入、抑制、 ため、併せて、 際競争力を持つ酪農に育成する 価格支持制度を強化 海外乳製品の輸

すること等も必要なことはいう 最善の努力を傾注すべきであ 化など、あらゆる手段を講じ、 合理化を果すため、 生産の組織

さら

والموالي المعاول الموالي والموادي 然変化を求められてくると考え られます。 機能を果すべく農協の組織も当 創意と工夫、そして情熱と誇り 秘めた無限の可能性に向かって り、この広大な北海道の大地が 四〇〇万人の農業従事者が激 第一は全国六〇〇万農家、 その変化の原因をみると



吉 田

創り出さなければなりません。

い途を

および農協をとりまく情勢は、 極めて難しい事情になって参り 農業の在り方を基本的に変えよ で今後発展を続けてゆくことは そのことは今日、農民 る 農 けるという組合員が相当数でる は少なくなり、兼業で農業を続 実共に農協を必要とする組合員 て農協に対する農民の要求も名 どが挙げられ、そのことによっ 業を続ける人が増加することな ٤ ホクレン農業協同組合連合会 第三は兼業農家という型で営 会長理事

成長から、 うとして これによ つつあるので、それに対応する を大きく変えようとしており、 って農民の様相が変り いるわが国経済の高度 農業をとりまく経済

> い実現に一層の努力を払らわれ 食糧基地北海道酪農の一日も早 * 奨学金返還に協力を 酪 農育

を持って、

国家的使命でもある

と決意しております。 者各位と固い結束のもとに明る ても各関係団体、ならびに生産 んことを期待し、系統農協とし い真の酪農郷の建設に進みたい こうしたとき全国唯一の酪農 経常費はこれによってまかなっ による維持会費をお願いして、 初十年間は毎年大口の維持会員 てきた。 本会の基金造成のために、 基本財産は手をつけず

本道の酪農は大規模化と共に施設・設備に目を

を愛し、

土を愛する三愛主義を

月末で、三、四七六万円に達し

北農

に利殖をはかり、

基金は本年三

専門教育の学園が神を愛し、

きな活躍がみられておりますこ り出し、道内は勿論全国的に大 より多くの有為な酪農経営後継 とに酪農教育、特に実学教育に とは今後の酪農振興の上に期待 建学の精神として人間形成のも するところ大なるものがありま 茲に酪農学園の教育に敬意を 関連産業技術者を送 後輩のために、返還金未納の方 程度の奨学金貸与を行なって 厚く感謝申し上げたい。 御厚情を頂いた雪印乳業、 のことをお願いしたい。それは るが、この紙上をかりて、か 団体、農材工業、土谷長松氏に た。これまで維持会費の納入に ての奨学生であった卒業生に次 が、この紙上をかりて、かっ度の奨学金貸与を行なってい毎年八○名内外、二三○万円

見張るものがある

者を始め、

当する人、生産の方法、生産物 の処理法などは著しく変化しつ 化していないものの、 薬は激動しており、有機的生産 という農業の特長はそれ自体変 出を念願するものであります。 表するとともに有為な人材の輩 このように現在のわが国の農 それを担 た。 ならしめようとすることにあ を組織して組合員を近代社会の義の領外の顧客である零細農民 奨学の機会を与えて頂きたいと に一人でも多くの学生、 は是非返還にご協力頂き、 一員として、その経済を合理的 いうことである。 そして組合員の経済的社会的

ようとしています。 業を自己の理論のなかに組入れ てきているが、自らの力でその を自らのものとして新し の脱皮に併せてその苦しみ悩み 化の洗礼をうけ、 目的を達し得ないうちに、近代 われわれ農協としても組合員

業も従来とは異った感覚で農業 ままでのように特別扱いをしな うに激変せしめている経済情勢 要求されており、農業をこのよ は、農業や農業者及び農協をい くなってきており、同時に他産 い農業をうちたてることが強く

要 治 待して止まない のための教育を充実強化される 業の主軸たるべき酪農健全発展 英智を集結した近代技術の習得 命もこれらの情勢に対応するた るであろうから、 と豊かな精神を培かい、 め益々建学の精神にのっとり、 今日まで手厚かった行政指導 今後はその基本態度を変え 酪農学園の使

本道農

に突入しており、 は過ぎ去り、 も単に生産すれば良い 熾烈な、 農業にお 国際競走 6. T スト教を母体とする三愛精神

きな原因の一つに、英国のEE

最短距離にある訳です。

一方、このような海外情勢と

日本経済の高度な成長

統農協においては、

日常の農政

門の専門教育の場として発展さ

展し、酪農に関するあらゆる部

自動車学校、酪農学校と発

敬意を表す次第であります。

更ながら先生の先見の明に深く

北海道酪農はEEC酪農に勝

0

て位置づけされております。

このような背景のもとに、

いても総合農政の主要な柱とし

高校、短大、大学、三愛女子高

関として建学されてから三○数

当初義塾から出発して機農

ことにあ

ったことを思えば、今

監期において実学習得の教育機

酪農学園は、

わが国酪農の揺

土を愛することによって協同主いわゆる神を愛し、人を愛し、

義による農民社会の実現を図る

広大な飼料基盤に恵まれ

要であり、

酪農振興は国策にお

命を左右する勝負の時期

であ

このようなことがいわれる大

袁

れております。

海外乳製品との勝負の年代であ

試練の年代であるとも

して、

この期間が日本酪農の運

が約四○○万トン程度でありま

から二倍以上の生乳生産が

昭和四三年の国内生乳生産量

間を要するものであることから

のではなく、

おそらく相当の期

ております。

・九%~八七・三%と予測されトン、従って国内自給率は九五

の飛躍の年代であると同時に、

EC加盟は一挙に進められるも

のが必要です。

しかし英国のE

もEEC内の酪農を凌駕するも

トンで、

生乳生産量は八一〇万

地開発、

ミルクロードの建設な

が望まれ、

国有林野の開放、草

ど基盤整備に対する国費の積極

までもありません。

力

生産者自からも経営の

的な投資が必要であり、また国

農国は別格としても、

少なくと

乳換算八五〇万トン~九三〇万

昭和五十二年度の需要は生

ニュジーランド等の先進

だ

昭和45年6月1日

に対し合理的に主張出来る水準 の様なことから、 と言ってもまだまだ少ない実態 々製品の消費量は増加して来た 我が国の牛乳

遠い地球のむこう側の話しでは 済まされるものではなく、 とが上げられます。 始されるとささやかれているこ し加盟交渉がこの七月頃より開

このことは

は生活の洋式化とともに、

国民

であります。 道酪農にも大きく影響する問題 ニュージーランド、

更に明年より発足す

あります。

ことに喜こびにたえない次第で

ている私といたしましても、

織として農協運動にたずさわ

ている様子をみるとき、農民組

米先進諸国の牛乳々製品の一年 増大しております。しかし、 をもたらし、 の食生活についても大きな変化 乳肉の需要も年

欧

の実現を目指して策定した農業

昭和五二年に於

題を明らかにすべきと考え、そ にたって北海道農業の目標や課 けでは不十分であり、長期展望 問題や組織問題の個別的解決だ

と、広く各界において活躍されを実践されているのは勿論のこ

す

生の方々が自ら合理的酪農経営

れ、これらの教育を受けた卒業

日農協に

おいても現在までの形

農家が少数であること。

第二は残った農業者でも専業

ると、農業者で組織している今

一方私共をとりまく問題をみ

減すること。

つあるといえましよう。

新しい世代を担う農業者は、

合以来六○年余の努力をはらっ

資本主義は農

地位の向上をはかるため産業組

14

間一人当りの需要をみますと、 ほとんどの国が五倍以上の一○ 市乳では日本の二〇㎏に対し、 ける道内の乳牛頭数八七万頭、 生乳生産 二八五万トンと 推算 基本構想では、

んどが三○倍以上の水準であり イタリア六倍で少し下るがほと ○○8に対し、アメリカ八倍、 〇~一五〇㎏が需要の水準とな してフランスの四〇倍、 っており、バターでは日本の三 チーズも日本の三〇〇多に対 イタリ 点項目として取り上げられ、 おいても酪農は、農業部門の重 標年次の昭和五五年度には乳牛 る北海道第三期総合開発計画に しており、

H

協運動の先輩である黒沢西蔵先

そもそも酪農学園は、

私共農

の体質を根本から改めようとい

ました。

従来米麦偏重の日本農業

入しておりますが、英国のEEなどから大量の安い乳製品を輸 C内の非常に高い課徴金の網を 加盟が果された場合は、 乳製品を使用することになり 現在英国では、 オランダ等 カナダ E

な国内保護政策をとっておりま ますので、大市場を失った豪州 て一方的な国内保護政策には限 本市場を狙って来ることは火を 見るより明らかであります。 ニュージーランド等が当然日 農業については各国とも強力 今日の日本の国力からし 国内保護政策を外国 上の水準となっております。 デンマーク、

その他の国

も約十五倍以

オランダの三

度があり、 ぶり、フランス、

頭数一一五万頭、生乳生産量二 が国経済社会は既に国際化時代 九三万トンを目標としており 前述の通り今日の されたものであります。その建 **ら運動のなかから協同主義に基** づく組合運動の一環として創立

高め、 はかるための実学習得に併せて 学の精神は、農民自身の自覚を 心の豊かな人間形成のためにキ 経営全般の技術の向上を

があります。 ことが予測され、従来とはその

ましよう。

の分野に進出しつつあるといえ

もともと我国の農協は資本主 す。

ことを願うと共にその成果に期

ものでありま

< 2 >

昭和45年6月1日

先生が酪農の教育の理想の実現

もなく本学園の創設者黒沢関長

本学は今さら申し上げるまで

主義を建学の精神とせる我国唯 大学を設立せられたもので三愛

一の酪農専間教育の大学であり

生のための図書閲覧室の拡張、

学生演習室の整備、

又食堂

0

学園大学を卒業し、

間もなく瀬

和三十九年三月に酪農

環境整備など幾多の問題を

た荒地を拓き今日 に 至 りまし 棚町へ参りました。そして瘠せ

で、当農場を紹介し、

充実教育の研究施設の充実、

設立後、

日浅い獣医学科

学の

教育の根底をなす農場施設の整

五ヶ年整備計画の実現、

のもとに北海道酪農義塾を創設

本学も今年をもって短大

浅学微力の私ではありますが教

職員一同は申すまでもなく諸先

実際の教育をなし、

にふさわしい心身共に健全なる

だその設備、

育

内容に於

和四十五年

月十八日

学校法人 酪

学園

務

理

畑の地点にあり、高台地の傾斜

農場は市

街地から南東に一、五

人口は六

千位の小さな農漁村で

地で、

+

質は火山灰を混えた埴

本学の同窓生各位の絶大な

والإنجازية والمراورة والمر

責務の 重大なることを 深く 痛

ておる次第で、

もとより

長先生がキリスト教による人間

科学を基盤とする酪農の

代酪農に即応せる教育研究を徹

底的に実施せんがためには、

られたるものでありますが

生の理想の実現に努めつつあり

本学は創立後日残く近

御助力を賜り度く、

心より厚く

農場

の目標と特徴

私の新任の挨拶と

瀬棚町

は道南の檜山管内にあ

料不足、水不足、厳しい自然と

多く

たが、資金不足、労力不足、飼

に従って経営を続けて参りまし

農場創立以来今日まで、目標

日

本海に面しています。

の発展のために今後とも

に送り出し各地に於いて園長先

一二一名の卒業生を実社会

生の理想の実現のため、

かえており、

今後なお関長先

一の酪農教育専門の大学として

述べさせ

て頂きます。

酪農に対 た。そこ

する私の考え方を少々

同二部4期、大学7期で

大学、酪農大学と急速に拡張せの変遷と時代の要望により短期

現下の激動期にある大学教育の

大学の学長を命ぜられましたが

度酪農学園大学並びに短期

せるにその端を発し、

戦後社会

力を尽して本学の進展に努力致る御鞭撻、御支援をたまわり全

る使命のもとに短期大学、

酪農の中堅人物を養成せんとす

決意であります。

短大学長

本

農だと思います。

です。これは非常に消極的な酪

えるのを待つ酪農であったから

生産力のつくのを待ち、

牛が殖

べきだと思います。

五〇万円(四五年度計画)、 トレーラー(各一台)粗収入六 クター二台、モアー、 出 正 レーキ、

尿は全部草地に置えするなら、

を創造する創造性に於て、

芸術

きるだけ多くし、生産された糞

単位面積当り の 乳牛頭数をで

業は芸術であると云う理由は、

のとれる経営にするよう努力し

なければなりません。次に、農

利潤を度外視し、新らしいもの

を行ない、牧草の生産を高めて れには、瘠地には合理的な施肥 図り、採算のとれる酪農経営を

然でありますから、徹底的に利

農業が企業であると云う事は当

な面を備えて居ると思います。

農業には企業的な面と芸術的

農業と芸術

潤の追求をすべきであり、

いますと、短期に規模の拡大を

では積極的酪農とは何かと云

確立することだと思います。そ

し、それ等の難を克服し、従来問題に ぶつかり ました。 しか の闘い等、数えきれぬ程多くの のではないかと思います。

この土地に酪農経営の第一段階 地元の人達が不可能だといった

可能性を見出した重大な成果だ 事は、この地域に於ける発展の の基礎が出来たのでした。この

と思います。

善をします。 倍位に拡充する計画です。これ り、今後五ヶ年後には現在の三 を達成する為に、次のような改 今後は、更に経営の改善を図

学

園

誠に慶賀に存じますと共に学園 誕生の佳き日に叙勲されました たことにより四月二十九日天皇

至 現四十二年

月十五日

酪農学園短期大学酪

農

学

校

長

成と地域の酪農のモデル経営をこの土地は、農業後継者の養

目的とした町有地でしたが、こ

れを無償で提供を受けたわけで

現和四十

一月十九

在日

学校法人 酪

農

学

園

理

事

長

熊笹の生えた荒地でした。

壌土です。当時は柏、楢、

和四十十

一月十九 日 十九 日

学校法人 酪

農学

点

常

理

の喜びでもあります。

常におっしゃっておられるとう

先生は生涯を教育に捧げると

至自

現和

二十四年十月三 十

在日

道

員

切何もなかったのでした。

このような条件の下で、

如何

牛、資金、生活の見通しは、

しかし、建物、

道路、

乳

和和

干五年二月三十

日日

北

員

り七十二才の今日尚教育に傾け

至昭和三十二

六年四月二十九日五年 四 月三十日

海

道

教

育

委

員

長

就

任

にして短

期間にしかも最少の資

だ

四等旭日小綬章受章

雄

肥の施用を行なう。 培管理を行なり。特に瀟漑と液 ンからフリーストールにする。 ②牧草反収一〇t を目標に肥 (1)牛舎を改造し、ルーズバー

当り産乳量を高める。 (5) 牛群の改良を行ない、 私は、今後ヨーロッパの酪農 頭

に追つき追越す事を目標に、

作る。

(4)良質のサイレージを豊富に

層努力したいと思います。

かって瘠せ地が肥沃になり、立 従来、酪農は二○~三○年か

(5)草地の集約的管理と利用に

考えられ、私も酪農はそのよう

派な酪農の基礎が出来るのだと

なものと理解して来ました。そ

れは余りにも牛の獲尿に頼り、

積極的な酪農

理解を寄せられて昭和二十一年同氏は本学園の教育に深い御

園本 監事学 ました。学園一同衷心からお慶日天皇誕生の佳き日に叙勲され び申し上げる次第であります。 協同組合その他農業関係諸団体 れた御功績多として四月二十九 役員の重責にあって御活躍され 殊に地方自治の発展に御尽力さ 同氏は北海道議会議員、

勲五等双光旭日章受賞

至 昭和二

日日

農義塾

野

機

農学

校

和和

十六年

二月二十三日四月一日

校

昭和二十一年

三月二十九日

海道庁

立り

十本

勝職

業免

校す

昭和二十一年

月二十九日

至昭和三

和和

十二年

月十六日

長制改革に伴い野幌機農高等学

酪

和和

干 年

四月五日

学校法人

酪

農学

園

常務

理 事 至昭和二十一年

年三月二十五日

等官五等を以海道庁立十勝農

で業て学

待校

至昭和十六年

月十二日

北海道庁立十勝農業学校

教

至大正五

月月

日日

興に偉大なる御功績を挙げられ 道私学審議会委員として私学振

生の叙勲を讃い

地方教育行政の向上に、

又北海

茲に御尊歴の概要を記して先

至 現三十五年

月

在日

海

道

私

会

委

員

しての私に与えられた最も大き

な課題で

ありました。そこで、

経営の単純化、集約化、省力化

する。

(3)機械化による省力化を推進

** 現二十八年

四

月三十日

海

道

教

育

委

員

長

就

任

営を確立するか。これが所長と金と労力で、効率の高い酪農経

昭和二十九年十一月

+

H

昭和四十五年

四

月二十九日

四

等

旭

H

小

章

受

える次第であり

教育委員及び教育委員長として

教育に努められると共に北海道

て

りません。

おられる情熱には敬服の外は

先生には多年に亘り初等中等

長 長る 遇長 瓶栄吾氏

以来本学園の監事として学園教 の振興に多大の御尽力をされ

辨乳室十

牛の糞尿のみで土地を沃やし、

れる生活の出来るように努力す

あろうと思います。

何故なら、

その肥効を過信していた結果で

経営の概況 つとめる。

頭)牛舎七〇坪、

から産業教育功労者と を樹立しました。 を目標に (1)完全な草地酪農型態にする。 ②牛舎はルーズバーン方式と する。 、次のような農場計画

(3)シャ (4) 蹄耕法による草地造成を行 る。 なう

酬して いる次第であります。

乳牛五五頭(十八ヶ月以上四〇 総面積六〇h(草地二五h)

五、五坪、乾草庫一棟 サイロ二基、

ージー種とFiを飼養す

ておられますことに対して深く

三坪、

車庫一棟十二坪、

もできないような素晴らしい生 まったと云われますが、確かに も楽しい生活の手段になるべき す。何故なら、農繁期には何に す。そして、これからは三し五 土地も短期間に肥沃化するので 活をすべきで あろうと 思い 活を望んでいるようですが、し 市文化の模倣に過ぎないからで その通りだと思います。 だと思います。最近農村の生活 なかったからです。やはり農業 もかも捨てて働かなければなら 立っていたと云えると思いま あるべきです。しかし、従来の ます。故に農業も生活の手段で 高度成長を続けている日本経済 立すべきです。そうでなければ 年で立派な酪農経営の基礎を確 かし私は農民は都会人には真似 す。農民は多く都会人並みの生 ん。何故なら、それは単なる都 水準が高くなり、農村文化も高 農業は農民生活の犠牲の上に成 の中で酪農だけがとり残される 職業は生産の為の手段であり これで良 いとは 思いませ 農村の文化生活 広々とした庭と花檀 冬には自家製 しか 為に、 思います。そこで、私の農場で 育を中心とし、更に精神教育を 加えた人格教育が必要であると 思われます。何故なら、 と一致するのであります。例え 等学校式の学校 を作る計画で です。今後の農民教育は基礎教 も技術偏重の教育であったから 完成する予定です。 す。今年五月までには、その校 象として、デンマークの国民高 は冬期五ヶ月間農村の青年を対 教育はなされたが農民教育は たいと思いますが、従来は農業 か、画家なら絵に描くでしよ 何んと美しい風景に変るだろう うな素晴らしい草地に変り、 緑のジュウタンを敷きつめたよ 目的は、自分のことだけではな 舎が多くの方々の御協力により り徹底されていなかったように らない時もあると思います。 潤を考えずに黙々と働かねばな す。そのように新しい物を創造 **う。その実物を我々が作るので** イロや牛舎が建てられるなら、 の牛が放牧され、赤い屋根のサ して行くのです。ある時には利 最後に農民教育について述 雑木と熊笹の生えた荒地が

余りに

を。少しの空地にでも果樹を植 例えば、

この教育

るでしようか。我々農民は都会 しい生活は都会の誰が真似でき の菓子と果物を。こんな素晴ら 乳や肉、卵利用による豊かな食 えて家族で楽しむ。果物や野菜 生活が出来ます。 を貯蔵し、自家生産の新鮮な牛

の人達の生活を羨むのではな く、都会の人達から羨ましがら です。 層の御指導御鞭撻を御願い申し 支えることの出来る農場にする 主的な農民を養成する事にあ 機応変に経営を変えて行ける自 ます。この農民教育を経済的に くお互いに助け合って農村を守 から感謝しています。 り、国の内外の情勢を知り、 皆様の多くの御協力を心 日夜努力を続けている

2 号

の農作物は全滅した。続く七年 昭和六年六月三十日 牧草以外 自ら当り中督根、野両先生が舎 酪農義塾々長は黒沢西蔵先生

始めて 自製 の サイレージを 造

十二尺の曲物型木造サイロで、

めての地上サイロを建てた。そ

は地下六尺地上二十四尺内径

と守って

居て くれた ものであ

る。次い

た弟も帰

宅、力を合せて開墾作 で海軍に微集されて居 十五頭となり、

茶内に於ては始

経営は成牛僅かに七~八頭。そ

れは老父母が基礎牛としてやっ

昭和十二~三年には乳牛二

経営を担当したのである

専念する

ことが出来た。

発足させ、

て見ると戦につかれた

り、その香りに感激の余り義塾

の青山永先生に手紙を書いた。

を拡大、

やがて土地に乳牛建物

業や暗渠

排水工事等をして耕地

を付けて弟を分家をさせた。

「それが酪農のだいご味である

一致の同情の義援物資の贈与を 入植者は食うに食なく、 皇室を始めとし官民 稀に見る大冷害と 加えて濃霧襲 された中
督根先生からは、デン も経営中に生きている。 ーク農業の実態が遂一報ぜら タ式教育であった。当時外遊 折しも野先生が種牡牛に突 私共のよき指針となって今 流汗悟道晴耕雨読のスパ

されたことは今も忘れ得ない

だデンマ

ク農法の直輸入であ

当時私

の経営は、義塾で学ん

った。家畜ビート、

ルタパカ、

と」と先生からの返信ではげま

たが、

昭和四年の入植当時は、

年にもなり、今でこそ根釧地帯 件われ、この地に入植以来四○

は主要なる酪農地帯となって来

なっ

た。

来が烈しく、

も夏季低温多雨、

に五十を過ぎる年になった。

大降霜に見舞われ、

り返ってみると、今は亡き父に

道の営農方針は穀菽農業であり

に衣なく、

F,

トが主作物であ

受けた。

え切れず、

そう失して内地に引揚げて行 しかし、この窮状に耐 約半数の農民は意気 光先生が舎監となられたのであ ったが、 て酪農経営の権威である鈴木重 術を習得出来たことを感謝し れ入院された。野先生にかわ 先生独特の酪農経営技

年末に除隊していよいよ酪農に

専念、更に終戦の春再び応召、

が行なわ

れ、私も卒先して参加

安定したので自ら築いたカマで

釧路地区連盟を同志と共に

瓦を造り、

仏像等を焼きあげて

北海道の酪農はどこまで進み

奮斗を契う。

模索の時代であろうが、

アが必要である。

今しばらくは

は必ずやその姿を現わすために

ためには巨大な資本が必要であ

旧来にとらわれないアイ

が必要だと思うのである。その

うことである。それは、

ソ連式

でもアメリカ式でもない

方式

ければならなくなって来たとい

之について行く経営を開発しな

止まる事をしらない現状では、

その頃、

酪青研の全道的結成

直に青年学校の軍事訓練に

2

師団に入営した。

入隊三年で除

あった。

デント

7

ンと飼料作物中心で

十五年三月現役兵として旭川七

天は時を私に与えず、

乳牛の制度を実施したの る。こうして、禍は転じて根釧 上信一氏は根釧原野に八割補助 針をいっしゅうし、時の長官佐 ここに於て、道庁も従来の方 であ ると、明治の末期から大正の さて、 治の末期から大正の十本道の酪農を考えて見

送り、

脱脂乳も汽車で送り返し

てもらい、

子牛を育てた。

内には集乳所がなかったので、

頭の搾乳牛を導入した。

当時茶

て、

入植直後四頭、二年目二

父は道の指導方針に疑問を抱

根室の西和田に原料乳を汽車で

対して従来の営農方針の転換を にわたる冷害を機会に、 ばならぬと信じて、根釧の二年 方文化の建設には酪農によらね は根釧酪農史に永久に書き残す 原野にもようやく生きる道が見 べき重大な事がある。 い出されたのであるが、これに それは、北海道の開発即ち北 道庁に といってもよかろう。このデン 式であったが、 ついては、宇都宮仙太郎翁と黒 を主とした北欧式のものである 農法 いわゆる 現在の 酪農経営 式であったが、一農家としてのよるいわば大規模官営農場の方年頃迄はケブロンや、ダン等に 沢酉蔵先生を抜きにしては語る ーク農法が導入された由来に 大正十年頃以降デンマー

2

袁

ある。

物でないため、これには困った

当時牧草は開墾補助の対象作

らしいが父はどんどん牧草を蒔

付して行ったので、

支庁の係官

を散々悩ませる処となった。

不に従わぬままに乳牛を殖し

然し、父は頑として支庁の指

だ

る。それは酸敗していたからで

して子牛に飲 ませた ことで あ

は温めると固るので、

手でほぐ

当時の思い出として、

である。 具申した一団の人々が居たこと れである。 先身である酪連会長宇都宮仙太 農業革新に関する建白書」がそ 事監事全員であって、 こうして乳牛が導入され、 専務理事黒沢酉蔵、 その人々は雪印乳業の 外各理 を推奨せしや」という挨拶の中て「余は何故にデンマーク農業ーク派遣留学生帰国報告会に於 スコンシン大学に於て時の総長 事は不可能である。 に畜牛実研会主催によるデン 宇都宮翁が、大正十三年三月 「今を去る十八年前、ウイ

は美化される、

と言われるゆ

「ああ

のか」と、

うそ寒い思いで感心

つかしさをもって胸に迫るの

不思議なことです。

が、そのすべてが、

され、 あったことを心から感謝して であるが、 て酪農科に学ぶ事が出来得たの である。 在の酪農学園の前身となったの 道酪農義塾を開設し、これが現 釧の各地に酪連の集乳所が開設 ことに着眼し、 背負う農業後継者教育の必要な 出された。亡き深沢吉平先生 更に酪連の首脳者は、 いわゆる食糧貴化である。 草を乳に換える方途が見 昭和十一年三期生とし 今にして非常に幸で 昭和九年に北海 次代を る。 尾舜治氏に建言して先の留学生ついての自信を深め時の長官宮 当って州の農民を前にして、 の派遣となり、 陽一をしてつぶさにデンマー ためである」ということで りと声涙共に下る講演を聞い 後学ぶべきはデンマーク農業な を視察させ、 ヘンリー博士の、大学を去るに こうして根釧の酪農も日と共 ク農家の招へいとなっ 宇都宮氏は帰国後女婿出 デンマー 又二人のデン

・ク農業に

1

今

昭和45年6月1日

< 3

に進み、

私も酪農を学んで家に

たので

思ってい

ます。

決して甘美な、

り炊事場であって、

のすべてでありました。

水はけの悪い重粘土の泥んこ

へ通勤していた少女の給仕さん

女性の栄養士さん、或は事務所

なら、

乙女等の声が満ち満ち

されて、オーバーに表現する

は、三愛女子高校までが設置

業試験場の坂道を下りた辺に

機農高校の校舎がそびえ、

にして、四年制大学、

西野幌五

八二番地の中にあると

春まで、

まる三年間を過した、

に長く奥行きのない、

昭和

十八年から二十一年の わたしの青春の墓標は

さて、

ついた足跡のしるしなのですめき、やっと現時点へたどり 過ぎ去った日日の中に遺して 想い出などというものは、 幾山河をよろめきよろ 墓標のようなものでし 悲しみを 甘美なな 二本立っ パラ色などと いうものではな 墓標の時点へ戻りたい気持ちに ば、なろうことなら、 黒に近い青春だったと思うので 見ると、 さえなります。 すが…… く、灰色というより、 吹きさらしの野原に丸太棒が 二十余年も経ってみれ むしろ暗 再びその

刻み、

よう。 きた、

喜びを刻み、

にじんだ墨文字で、 野幌機農学校〃と書かれてあり その一本には、風雨に て、目をこらしてよく これが校門であった //興農義塾

の椅子に るほど腹を空かして、 と、そして、 かったこと イモメシの うま かったこ 堆肥運びをしたモッコの重 皆んなと並んで食べ 無情なほどにその - 目の前が暗くな 食堂の木

現在の食事時の光景からは、

管が埋められ、

は、学校法人酪農学園という、 日本唯一の酪農教育の殿堂にま 余年が過ぎ、かっての機農学校 身については私には判りません で発展しています。 る」という感慨があります。 れたのでした。どれもこれも、 寮、五寮と、寮の建築が進めら 「俺達の血と汗がこめられてい 西野幌以前の、義塾時代の前 西野幌以後でもすでに二十

の悪い 事に 牝牛 が 仲々生れな をつとめた。先ず何よりも乳牛 より基礎牛が少ないうえ、 の増殖が先決と考えたが、 しばらく地区委員長 意地 た父は、 晩年を過したのであった。 常に「天に逆らうな」といっ 又時に自作の

続いた。昭和二十五年代は開拓 であった。二十九年に釧路では 々々と夢中で過ぎてしまった。 い。年に二~三割の年が何年か 昭和三十年代は機械化の時代 代から、 路天街驀進して止。と吟じて権威高貴重なる人生再不来一生 不 知 死亦不知身天有而生 不 父は、 トラクター農業を見て 渡道以来一鍬一鍬の時

T

経済が高度成長を遂げ、

今後も

に考えることは、余りにも日本

ソン三七馬力が入った。その前 一台目のトラクター・フアーガ は二人の兄弟共どうやら経営も 始めてわが国にトラクターと名 年父与太郎は七四才で他界。父 の付いた物が入った。三十三年 搾乳が可能となるまでに漕ぎつ を越え、今後数年にして五十頭 となって私の経営も乳牛五十頭 永眠したと思う。 逝ったのであるから、 それから十有余年、 満足して 七〇年代

面には、炭鉱住宅のように、横 したものです。校門を入った正 校舎であり寮であり、食堂であ の建て物が一棟あって、それが とも角学校 木造平屋 さに墓標と呼ぶにふさわしい灰 片的によみがえる想い出は、 炊事の小母さん達や、 に暖色系の色彩を感じたのは、 色の図柄ばかりですが、わずか 怖に心のおののいたこと-うら若き

ワラジの足を取られなが はそれは、なやましい存在であ など、野郎ばかりの世界の中に おける稀少価値も手伝ってそれ ったように思われます。 そんな日日の中で、 生徒の手

る私などには、なんともうら

にまで青春のときめきを覚え

欲求不満時代のOBであ

カッパ頭の、少女の給仕さん

ているようです。その昔、

才

やましい限りです。

しかし今更、むかしむかし

によって、土地改良の暗渠の土

は決して昔ではなく、 の追憶といってみても、

僅々二

それ

れから成年期を迎える段階に 十年の瞬時の光芒にすぎない ようで、

酪農学園も、

漸くこ

泥んこ道には炭

思います。

至った、ということだろうと

ガラが敷かれ、二寮、 三寮、

道をふんまえる礎になってい

るように、

西野幌五八二番地

を埋めたあのときが、

現在の

それぞれが、青春の

です。

うことは、

本当に嬉しいこと

学園便り~が発刊されるとい

達したそうで、こんな折に

11

学園の卒業生も、七千余に

な上級生に呼び出されて、制裁 の犠牲に合う仲間を見ては、 夜な夜 並ぶ丘の上には、 私たちの、青春の墓標が立ち 原始林を背景

移転できそうにありません。

(機農学校二期生)

が青春の墓標を私はどこへも

原始林の丘に建立した、

思います。

ちが歩む道の両側に、

美し

1.

からの便りは、これから私た

連帯感の花を咲かせるものと

量が少なかったこと!

適地適作の信念を通し 酪農に伍して進まねばならな うるか、それは私にもわからな い事ながら、少なくても世界 又進み得ると思う。 この時

昭和45年6月1日

努力が十分みのる ような仕組 方法をとれば必ず繁栄する 農業として栄 えて はきました 日本に育てるべきなのでし か。わが国の農業は米と果樹

村へ帰り、自ら土と取り組む人 ども酪農学園の卒業生はまた農 さり寄付もしてくれます。 ものなのです。 私はこんな信念を持っ

をさらに

盛んにするために有為

話してみたいと思っています。

に気に入ったのかということも

か、デンマークのどこがそんな

役割りがあるのです。この酪農

う案外気づかれていない重要な

のように国土を豊かにするとい物でやれるのです。酪農にはこ

ますから、では一体なぜそんな

にデンマーク崇拝者になったの

生懸命で努力してきたのであり

考え、この夢を実現しようと一 のデンマークにしたいものだと

なりませんが、酪農は自家生産

ら土を運んできて入れなければ は地力が落ちてくると山や川か

ない、それにはデンマークのよ ら、本物の農業をやるにはデン 道にはもう五十年以上も前か それも技術だけではなくて頭も うに本当の

農業をやれる

農民、 にはなれません。しかし、 マークを理想にしなければなら 々が多いのですからそんな金持 易を盛んにするのでなければ、 りっぱな工業を築き、 業は必ず滅びる、と。 する国や、土地を粗末にする ています。農業をないがしろに まず一国の繁栄がそうです。 農業を土台にして、 その上に

生産する酪農はこれからの農業

物性の蚤白と脂肪の生産が必要

な時代となったんです。

乳肉を

てみたい

と思います。一体酪農

という時代は終わりました。

動

か。私は

どうしてこの学園を創

うな考えでこの学園ができたの

学園の使命にほかなりません。

そこで

私は、改めて、どのよ

な人材を農村へ送り出すのが本

立したの

かという根本の話をし

すでに米だけが食糧である

です。一体、欧米人の体格はど

か、この

学園が実学を重んずる

というの

はどうゆ うことなの

学園の建学の精神は何であるの

うしてあんなに偉大なのでしよ

思って、この小冊子をみなさん

ことをよく知ってもらいたいと

に読んでもらうつもりで出し

した。

科大学とも違います。

私はこの

と違います。

普通の農学校や農

酪農学園は普通の学校や大学

くったものです。ですから、 心もりっぱな農民を育てなけれ いと信じ込んだ酪農の同志が 雪印だってこの考え方を正し という考え方があ 0 る。証明されていることです。世界史にちやんとしるされてい るものではありません。これは その国の繁栄は絶対に永続きす です。そのころの世界の一等国 例えばいまから二~三百年前

袁

場や牛舎のそばを通りますね。

慢するつもりは少しもありませ

見かけでこの学園の特徴を自

んが、この風景のなかにだっ

学園の建学の精神はりっぱ

る運動、すなわち協同主義に基

したから世界を股にかけて、

あるのです。

でしたね。

彼等は商売上手で

小件です

農学園は、米麦中心の日本農業

はオランダ、スペイン、ベルギ

の体質を根本から改めようとす

覧なさい。この広さは日本一で

この学園の敷地をみなさんご

ばいけない、

りました。

す。教室に入るためには必ず農

指導者を育てようとしてつく 日本につくろうと決心した酪農 誕生したもの だとい えるん 家が若い腕と心のしっかりした す。世界一流の酪農王国をこの づく組合運動が拡がるなかから 6 やはり貿易によってインドやイ として商工業の発達をはかり、 躍していました。しかし、彼等 イギリスです。鉄と石炭を基礎 したから永続していませんよ。 の繁栄はただ貿易に頼るだけで その次に世界に君臨したのは

ば、よく理解してもらえると思 農村に寄生するような人間を育 た学園なんですね。 てる学校ではありません。 このことは学園の歴史を知れ よくいわれる背広農民とか、 ようか。 の農業をかえりみなかった時代 して王座につきました。しか ンドネシアから莫大な富を吸収 のことを深く反省してくやんで し、今日のイギリスはどうでし いまイギリス人は国内

酪連―興農公社そして農協団体

この小冊子を読めば判ること

雪印乳業とその前身の

てきたのがこの酪農学園なんで

ません。どうも発達が遅

いです

す。大いに反省しなければなり

台をしっかり固め、その上に工 は、日本も農業という産業の土 伸びてきました。ですから私 農業の振興に大いに力を入れて

ほど土地をこやし、

も良く育つ農業なんです。家畜

に大きな影響を与えた学風がし

いたのです。明治維新

藤田東湖の学問で、明治維新

界でただ一つ、続ければ続ける

農業は酪農です。この農業は世

今私達が志している

ほどしか

離れておりません。

わば水戸

学の総本山ともいうべ

きところです。

ろとして

有名な西山郷から一里

「大日本史」を編さんしたとこ

商業の繁栄を図っていく必

いです。しかし、農業はだめで達しました。まさに日の出の勢

国の産業は明治以来目覚しく発

を話しておきます。一体、

わが

骨身にしみて感じて、育て上げ

が酪農教育の必要性、

重要性を

卒業生は実業界や政界にどんど

の宿命でしようか。

の繁栄は永続しないと信じて

要がある。そうしなければ日本

やす役目をしてくれるバクのふんや尿は土地のなかで土地

の大政奉還は水戸学があって

ねなぜでしようか。

これは農業

普通の私立学校や大学なら

浄財でできた学園だということ

裸々にしてみましよう。これを

口にいっておけば、

います。

さて、本論に入る前にほんの

いるではありませんか。

その後世界をリードしたアメ

カは大農業国ですよ。ソ連も

で使うというやり方でした。

た。畑は作物がとれなくなるま

農業に対する私の考え方

出来たのか。

今日はこの話をあ あからさまに、赤

るがままに、

ませんでした。

いまでも財産な

んかありません。

ではどうして

な学園をつくる私財なんかあり

は酪農義塾という名前でした。

しかし、私にだってこんな大き

もう三十七年になります。

当時

た。あれは昭和八年ですから、

酪農学園は 私 が 創 立しまし

に生きているのですよ。

ことはわが国民の人種改造と や遺伝に依るだけではありませ **らか。これは単なる人種的素質** 充実した食物があるからです。 脳にも影響します。 です。しかも食物の その中心が牛乳・卵・肉なん 彼らには日本人よりも遙かに わが国で酪農を発展させる いかんは頭 したが

私は炭

でした。農業を続ければ土地はきり意識した農業はありません た。水田も古くなれば水がわき、 荒れるものだ と 思っ てきまし きました。土地をつくる、国土 だと日本人は長い間信じ込んで す。農業は穀物や実をとるもの や無畜農業には不可能な国土づ う重大な事業に深くかかわり 秋落ちするのが当たりまえでし を豊かにするということをは くりを使命とする重要な農業で また、酪農は単純な穀作経営 2 水(がいすい)義塾という漢学って手ほどきを受け、さらに涯の達者な人のところへ暇々に行と、まず、隣りの家にいた漢学 ところで ころは水戸光圀侯、水戸黄門が 整へ二年ほど通いました。 制の尋常小学校しか ありませう時代ですから、村には四年 校制度は、義務教育四年制とい れきりなんです。 いった そのあとはどうしたかという だから私もここを卒業してそ すが、私の生まれたと いに茨城は理屈が多い

た。本当にその日その日の生活 にも困る小百姓というか小作の で明治十八年三月に生まれまし **富陸太田市になっている世矢村** (城の水戸の在で、いま その当時の日本の学

たき込まれたわけです。そうし らすぐ実行するということをた うごういつ)といって、考えた 塾生活をやり、 を論じたりうれいたりすること を教えられました。 て一国の進路というか天下国家 その後、満十四才のときで 知行合一 (ちこ

自分でくめんして東京へ出まし た。そうしてアルバイト、むか 東京へ行こうと決心し、旅費を れ以上勉強できない。それじや す。こんなところにいたってこ 人がいるのか、

年の歴史をあるがままに、これ 沢西蔵をマナ板にのせてみま ところを別の黒沢西蔵が刀を取 もソ上にのせて解剖してみまし す。そうして酪農学園三十有余 よう。ウソ偽りのない赤裸々な って解剖してみようというわけ そこで、私は学園創立者の黒 才のときに受験してみると、体

た。食うや食わずでやっていた 格で、はねられてしまいまし

のおいたち としては吉田松陰、佐久間象山 めて成就できた訳ですが、学者

立役者は水戸学を習ったもので ばな学問だという心得を持って にも水戸学は偉い学問だ、りっ 坂本竜馬にしても、明治維新の す。そんなわけで、私は子供心 いずれも水戸学の流れを汲んで います。また西郷隆盛にしても 件があって、

る、これです。内村先生はこの

関心と同情、義 憤 を 集 めまし に全面をうめて 報道 されまし た。直訴事件は東京市中の新聞

尋ねました。満十六才のときで 感激した衝動から、田中先生を りしたんです。純情な子供心で

そこへ学僕として住み込みまし 数学院という塾を開いていて、 です。神田に上野清といり人が しました。これが明治三十二年 し流にいえば苦学生として勉強 という。 後です。

もらいました。当時はまことに らい、そこから学校へ通わして 院の先生のうちの書生にしても のどかなもので、ちよっとした ってから松本小七郎という数学

> う」というのです。ちようどい ら一度現地を みたらいいだろ

に「話だけでは判らんだろうかれました。そして先生がいうの

くなる、

りっぱになる、

そう

というもの、デンマークという

私は一生涯のうち六十五年間

本を守っ

ていけば必ず土地がよ

の根もそうです。ただ忠実に基 テリヤのエサになるのです。草

しよう。か、ということにも触れてみま

う農業は酪農だけです。水田で

国を憧れ、

何とか北海道を東洋

おいており、 語学校、 ということがよく いわれます 体よかったので、英語は正則英 ろは数学と英語さえできれば大 先生は必ず二人や三人の書生を へ通い、一生懸命やったもので からくなかったですね。そのこ 青雲の志をいだいて上京する 明治時代の若い 者はみな 数学は松本先生の学校 いまのようにせち

ばよいという時代でした。十五 ましく問わない、試験さえ通れ した。資格とか学歴とかはやか 人です。海軍兵学校をねらいま をもっていました。私もその一 「末は大将か大臣に」という夢

きたわけです。田中正造という 問題であった足尾鉱毒事件が起 治時代としてはただ一つの社会 えて勉強に励んでいました。 ものだから目方が足りない、そ 天皇に直訴を行なったという事 れに私は小柄です。仕方がない から来年もう一回受けようと考 ちようどそんなところへ、明 国会議員を辞めて、明治

と、田中さんは「まあ上がれ」 流宿に行って、会いたいという に直訴いたしましたからその直 明治三十四年十二月十四日 新橋の越中屋という三

ました。よくもまあこんなひど

る、という惨たんたる光景を見

い、食うには困る、病気にはな

でした。百姓は作物はとれな 何十里という間は可愛相なもん ところ大同小異なんです。沿岸 岸をみて歩きました。全く至る

ようなものでした。一年ほど経 た。学校の講義は盗み聞きする んでした。私にじゅんじゅんとのと大違いで実にいいおじいさ 会ってみると新聞などでみる

鉱毒問題のてん末を聞かせてく

ったわけです。

あ、と純真な学生としては、

子吼したり、国会議員を辞め 当に怒り心頭に発して東京へ帰

あ、と純真な学生としては、本いことを問題にしないもんだな

なるほど田中先生が国会で

直訴したことも、これじやもっ

ま内村鑑三とか島田三郎、木下 と一週間もすれば出かける、そ 生の視察団を募集している、 尚江という人達が発起して、学 うことです。 れに加わっていくように、

視察団には東京中の中学校も 太郎などが来ていました。この は河上肇、早稲田からは永井 り、内村鑑三先生に率いられ 視察に出 そこで私もその視察団に加 かけました。東大から

校も大学も全部参加してい てみるとひどい。まず古河で降 す。学生だけでも千五百~千六 百人はいました。 なるほど行

如き小男が抜いてもポツポツ り鉱毒のために腐っていて、 にもびくともしない根がすっ た。竹ヤブに入ると、あの地 り海老瀬村や谷 中村 もみまし

うでした。それだけではないん です。田んぼの中、 けてしまう。どこへ行ってもそ

それを農民が一カ所にかき集め で、緑青が生えた泥ですから、 くると泥がたまる、それが鉱毒 塚が累々とありました。洪水が 畑の中に毒

いっぺんに世人の ました。学生はもうみな興奮し 毒塚の上から大演説をしてくれ のはあのときです。 ました。血わき肉おどるという

が、私はここだけでは足り 質慨しました。

私も非常に

ました。いまどきこうゆう偉い 私はそれを見てえらく感動し と思ってびっく

人と一週間ばかり渡良瀬川の沿

い、もっと奥までみよう、

と友

ts to

こ。以は余於こよっこ型ド、	と / この ト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4 1 5		三是つと、ここうでをされ、	基こて着 なのかが、この日本の	これ、自己是各十ら貧毛でませ
めは家も牛もみんな借りもので	にして下さい。使っ	Br.			国土はどんな僅かな部分でも	強兵も国を守る強兵ならよい、
ゃやれるもんでありません。初	こですぐ、「先生、	度り、真胸内	ろうかという疑問も	聖書を	というんです。	ま「舊国は
といっても、とても二十四円じ	いっぺんに失心し	似の生まれたとしに略農を志し	みても果してそれ	している	散を知らなすれば国は	、と言じてやっています。
ところが、いく	生を酪農に奉げ	った人でした。明治の十八年、	でした。これで天下	やはり飲	れば国はダメなんだ、国	なくては
遂げたのです。	だ、これは一生をかけてやる仕	字都宮仙太郎さんは一風変わ	日の生活にもこと欠く	3	治山治水をや	私共も国家のために田中先
おうと決心していましたからや	はこれを聞いていて「これ	になりました。	たときにはりっぱで	込まれていたとき	。田中先生は、	という。
どうしても独立したい、牛を飼			いずれも貧乏です。	し、私が前橋の	当時としては気狂い扱い	、それがよ
くれる人もありません。しかし、	姓は日本人に役に立つ仕事	社の社長をしていた阿部宇之八	ました。しかし、その	ら持っていたも	•	がしかし、田中
文ももらわず、また、援助して	なければならない、だから牛飼	、北海道毎日新聞とかいら新聞	で天下の志士と	教は邪教だと思い、	知らざるは亡国なり」	のないところか
きの資金なんです。誰からも一	もっと牛乳を飲み、牛肉を食べ	した。それから札幌へ来まして	に、それともう一つ、	学で育ちました	れているときに国会で	の方針でした。これも今か
が、除隊後、酪農で独立すると	に日本人の体をよくするために	す。明治三十八年の夏のことで	だ、働かねばならぬと決	出来たのもこの	"	心能けさせるというの
十四円の金をためました。これ	思っていた時代です。そのとき	ときの所持金は二円五十銭で	には私は東京	キリスト教に帰依	をもっていました。	い、そうして銅山の仕事は
けです。そこで私は二年間で二	杯になればよい、米が食糧だと	へ上陸しました。ですからその	T.	大きいのであります	という信念といおうか	苦しいだろうが我慢して
で、これは買いますが、それだ	は考えない時代です。ただ腹一	で貨物船に乗って北海道の室蘭	前にする責任がで	に負うとこ	日本は栄えるもん	いわけです。そこで沿岸の
ただ銃を掃除する布がいるの	から、まだ栄養などということ	円五十銭の金をこしらえ、五円	さんの組で	D.	ない。いやしい。そ	物の処理も十
はタバコも酒もやりませんし、	今から六十年も前のことです	売ったり、いろいろ工面して七	うもないんで	ました。	って喜こんでおるとい	稚な時代ですから、製錬し
んをすればやっていけます。私	病人もよくなるというのです。	旅費が安かったからです。本を	恥をいいます。	だん先生の人格	い。	はない、また、まだ科学技術の
せてくれる、別にちよっとがま	つし、一般の人も健康になる、	を選んだのかといえば、それは	ありました。父はおりました	汨ってく	んだ。	産地ですからつぶすのは容易で
れるし、着るものもちゃんと着	する、牛乳をやれば赤ん坊は育	海道へ渡りました。なぜ北海道	って世話をする必要	、また、東京へこられ	もんじ	す。
りました。食べものは出してく	第三に牛乳は人間の体を良	は若い夢です。そうして私は北	一人ずつあったんですが、これ	地へいっしよに	7	しては銅という資源はどうして
ますが、私は一ヶ月二十銭でや	うわけです。	くか考えました。もちろんこれ	帰りました。私の下に妹と弟が	中先生に非常に私	浅知恵やわがまま、私利や都合	かというころですから、日本と
か五円とか父兄からもらってい	んでもいいと	行くかり	非常に悲しかった。すぐ郷里へ	した。	なければならぬものを、人間の	り、これから日露戦争になろう
で足りないというわけで三円と	にけの報い	めに働く、という考えで、アメ	に私の母が死んだのです。私は	事した四年間いくどとなく聞か	ばに	の時代です。日清戦争に勝ち誇
必ず貯金しました。同僚はこれ	す。真心をもって、一生懸命働	、それ	ところが、私が二十才のとき	田中先生に直接	くった大きな楽園なのだ。それ	夢我夢中の時代です。軍国主義
たが、私はそのうちから一円は	ないというの	があるおれるできまれ	米の米の米の米のからかったのれの木の木	国土は大事であ	から	日本は宮
というか、手当てをもらいまし	おべんちゃら	松	和の酢	した。その国土尊重論と	60000000000000000000000000000000000000	大の大の大のようようなの大の大の大
ケ	てるのにご	光の大の大の大名と大の大の大の大の大の大の大	ではなる。大学の大学	か田中先生の一貫した	成と日中先生	利の思想形
ころの連隊		行って話を聞いたものです。	また止める、というわけでした	らない」というので	OKONONONONONONONONONONONONONONONONONONO	の大いなど、山の町大の大
れました。		、東京へくると必ず寄っ	そのうちにまた退屈して開く	に足尾銅山は停止	一に六ケ月いました。	鉱毒被害地の農民自身、とくに
務年限三年のところを二ヶ年で		工も新井先生のこと	て伏せてしまう。	ことはない	れてしまいまして、あ	メではないか。これはやっぱり
一等の模範丘		ました。	ことが書いてある、いやになっ	にするということは	うとう前橋監獄へほう	れば
		の聖人のところへ	からん	米永劫役に立た	て館林の警察につか	し根本の解決を
甲種合格で		(おうすい) 先生とい	本はす けのわ	の土地を不毛にさ	ならんという	運動も一時的な助けになるかも
は札幌月寒の二十五連隊に入り	運動のときなどで、さんざん警	ような生活をしていた	nie.	るのはどうゆ	なったんでしよう。これ	た。なるほど教
兵役の義務がありましたので私		われ 集戦に魔を結ん	2 15	んなものに目がく	ん当局の目に余るという	たた
そとこんとは兵隊です。当時は		すり、世界	てみ	カの鉢が出るから	がにやりました。そこ	ましと
翌明治三十九年の十二月にな	た。私はいきなり第一の役人に	から無罪になりま	と読	住んでいく	まらんというわけで	はなしに学生の数が
読んだりして勉強しました。	を良くすると教えてくれまし	た	ちよ	には昔から人間が	にかくこちらはしやく	から、このため、
ドに火をつけたり、酪農の本を	よい、第三に牛乳は人間の身体	判はいろいろいきさつ	に見	数万町歩の土地は永久に		大臣の権限は強いし大きな力が
より早く起	い、第二はウソをつかなくても	7	気なし	ろが渡良瀬川沿岸	私が上	にしろ明治時代ですから政府や
きてがんばりました。三十分か	一は役人に頭を下げなくても良	女心して	か	りつくしてしまう。	記愛会と名づけま	いうので
でしたが、朝は	それは何ですか、と聞くと第	「君の弁護		らなくなっちやう。	き回り	てはいか
。一番初めの仕		なった日本一の弁護	よう。	そ。せいぜい五十年	の知行合一、さっそく村	して、そん
返りも容易じやな	です。いわゆ	、のちに日本法曹界		。永久に銅が出るんじやある	いです。このあたりが例の	15
寝ると体が	百姓にはいいことが	事を辞めて弁護士に	うがな	限がくればなくなるじ	ゃいい考えだ」と	ところが、その
の、三ヶ月か四ヶ	ていきなり「牛	の人は鉱毒事件の弁護	で	くら銅を出せるか知らんが	起そうと思うが、といっ	まりではない
3	吸のことなど何も知	が担当してくれ	=	は間違いである。足尾銅山	1	日本の
た。	宇都宮さんに会っ	んという長野県飯田	要和	土地でも粗末にするという。	心へ乗	扱してくれました
、とにかく酪	ぎっていたア	\がまんしていると今	精神	ないのか。その国土を、	とおりだ」というのです。そこ	でした。東京の新
それ	で自由と人権思	、裁判の方は未決と	á	るのは国土があるから	のい	送りました。大
月一日です。いうならば、私の	であり、また、	です。	・酪	るんだ。われわれ人類	すると先生は「	やり。衣願や米
た。ときに	りますが	る出てき	農学		そこで私は田中先生に	私も負けずに路傍
型日さっそく字部宮女易こ入り	、本道路農の	そのうちこだん だん 判ってきっか きょうきごん だん 判ってきっ	- 国	ない、というんです。田中先生		で、学生広島牧舎会が東京こで
なさ、一とこうゆうったでた。	ってき	としまっ	- Commence of the second secon	こりしてしまうことはいいでも	ら響起して女牙	ころとこのは、ようこの間もとは

を引き取りました。私はどんな あくるとしには郷里から妹と弟 そくたのみ込んで一頭借りまし まして牛を貸すというのでさっ

上田万平さんという篤農家がい

た。もら一頭別の農家から借り

て二頭で始めました。

これが黒沢牧場の始りです。

次は牛です。

これは円山の方に

ていましたから牛は飼えます。

佐藤さんに相談して山鼻屯田の

中隊長の入っていた家を借りま

した。裏に五反歩の土地もつい

藤貢さんのお父さんです。私は

ンゴ園を経営していました。佐

そのころ山鼻で自助園というり

た。佐藤さんは屯田兵の子供で、

佐藤善七さん と 知 り 合いまし

そこで一年前に洗礼を受けた

ソジスト教会で洗礼を受けまし

農

< 5

略される方も迷惑するじやない

国土をおかしくしたり、こわし

ていたものですから退屈で退屈

で食える人間にならなければな

業を続け、

ウイスコンシン州立

明治二十

年にアメリカに渡り修

生はすぐ、「ああ、いつでも来さい」と頼みました。すると先

明治四十二年の一月に札幌のメ

れたのです。

(次号につづく)

うのとれた

一人前の

酪農家に

な

した。私は除隊になった翌年、

見習いの若い者もおいおいくる

ようになり、

どうにか、

かっこ

建物も施設も全部自分のもので

ときは自分で土地も買いまして

した。牛も四~五十頭近くなり

の家は大正十二年、独立して十

私が昨年まで住んでいた山鼻

五年目に建てたものです。この

を建てよりやく一人前の酪農家

は自分の家を建て、

本式の牛舎

になりました。そのころ牛は十

八頭になっていました。

町いって一軒という具合ですか配達も一町いって一軒、また五

牛乳は病人か赤ん坊が飲むとい

冬はつまごです。今とちがって、

った薬扱いの時代ですからお得

半で二頭の借り牛を自分の牛に

しました。五年たって、こんど

うゆうふうに働いて

一年か一年

ちよく走り回ったものです。こ

ビン棒でかつぐ、

夏はワラジ、 冬になると天

るのは夏だけで、

です。

自分で配達に歩くだけで

り歩く以外に方法の ない時代

乳を搾った人は牛乳をマチに売 うものはありません。牛を飼い、

の時分はまだ牛乳会社なんてい り寸暇を惜んで働きました。そ 十時まで働きました。文字どお ときでも朝は三時に起き、夜は

す。牛乳を大八車にのせて配れ

とにかく一人立ちして、自分

三畳の狭いところで寝起きし

実に大事なもんで、この日本の

だが、他を侵略する強兵では侵

昭和45年6月1日

袁

b

第

2

_	第	5 2	2 5	7														333			Ì	略	是	北美	学	: [5	副	だ	0	ţ	ŋ									昭	和	45 £	手 6	月	1	日	<	6	>	
北海道開拓農業協同組合連合会	留萌地方農業協同組合連合会	会			会	ホクレン農業協同組合連合会	酪農学園	酪農学園	国際農友会	北海道酪農協会	北海道信用農業協同組合連合会	雪印乳業株式会社	雪印乳業株式会社	サツラク農業協同組合	北海道農業協同組合中央会	酪農学園機農高等学校	理事		父会士	事的 見		副会長	日本経済団体連合会	4	e E	7	受員及が平義		十七日付文部省委管第八号をも	については昭和四十五年二月二	のものであります。尚この法人	心両面の後援を広く求める所以	×2	るところ大なるものがあり、愈	の各農学園牧育の長貴に用等ト	ついては前号に掲載いたした通	であります。設立趣意の概要に	しましたが御芳名は別記の通り		会におしては規定に基すき誤議	を着々進めているところで理事	可されて以来これが活動の準備		本法人が昨年十一月十八日付	が一般を表する	配農学園後援		東因法人		
常務理事 宮 本 悦 次	7	副会長春木青年	専務理事 草地 祐四郎	務理事 梶浦福	生事 西田要	会長橋場正	務理事 ○菊 地 正	理事長 川村秀	生事 三上孫士	長沢潤	事 田下健	長 児玉由	鈴木	合長 築山泰	早坂正	PTA会長 ○山 岸 六 郎	(順不同 〇印 常任理事)	ままま	上 是 声 是 後 三	長直橋雄之			会 長 植 村 甲午郎			Ī	3、 顧 問		ることになりました。	定され税の優遇措置が講ぜられ	二号の規定に該当するものと認	び法人税法第三十七条第三項第	て所得税法第七十八条第二号及	日付大蔵省告示第四五号をもっ		で大蔵大臣に申請のところ去る	-	6.	ぜられることこなりました。又付される芝上の架另指電か書	1133	号に掲げる試験研究法人である	施行令第七七条第二号又は第三	第二号又は第三号及び法人税法	って所得税法施行令第二一五条		会たより				
雪印乳業株式会社	雪印乳業株式会社	雪印乳業株式会社	雪印乳業株式会社	サツラク農業協同組合	雪印乳業株式会社	株式会社酪農社	札幌雪阪株式会社	東京雪印運輸株式会社	北海道雪印運輸株式会社	雪印商事株式会社	東京雪販株式会社	北紡株式会社	SN食品研究所	クレードル興農株式会社	江別市議会	江別市農業協同組合	釧路地区農業協同組合長会	十券也区是菜岛司租合長公	古守也区是英格司且合是会	北見地方農業協同組合通合会	根室管内農業協同組合長会	根室生産農業協同組合連合会	釧路農業協同組合連合会	宗谷地区農業協同組合長会	宗谷生産農業協同組合連合会	上川地区農業協同組合長会	上川生産農業協同組合連合会	空知管内農業協同組合長会	空知生産農業協司組合連合会	石狩地区農業協同組合連合会	日高生産是業品司且合連合心	日 <u>世</u> 寶勺農柴劦司狙合長会 胆振生産農業協同組合連合会	後志管内農業協同組合長会	後志生産農業協同組合連合会	道南地区農業協同組合長会		北海道信用農業協同組合連合会	化毎直隻業務司且か中央Ak	"	北海道大学	評議員	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	式会社	世の野菜材式会社	1 日本本の	F	酪農学園機農高等学校同窓会	絡農学園大学司祭会	酪農学園短期大学同窓会	日本酪農青年研究連盟
間	妄 道友社長 邦 紛 役 北	常務取締役	常務取締役	合	社		社長	専務取締役	代表取締役	550,20	社長	副社長	.000	社長	55 55	合			· 会	700.750	n - 1210			e CDSS			会長					会会長長		E TOOK	会長		7 /8	副 //	"	名誉教授	(顧不同)	l i	社员	造 整整查 农	Shirt Ex		会会長力	会社長長		委員長
中西	後藤	山本	吉田	5200		5270000			2000		徳田						1917 7		归斤	村田		小林	二瓶		大津		6 11	谷	. ;		多	岡部		中村				1 三 五 反 木	黒沢	犬飼		Ē		曾 安田 達			高石			www.
文	82		千	泰	由		松太	新	吉	+	=	平元	義	武	行	寅	武	χī	E	克	3	清	栄		年		·· 青	3		Œ		即三郎		盛		· 斯	健工	E 個太	亮	哲		1		百			勝貞	貞庸	節	徳
- Service	雄 全国厚生農業協同組合連合会	博全国購売農業協同組合連合会	里 全国販売農業協同組合連合会			家の光	日本日	評論		北海道	阪市	江別市	-	光 北海道市長会	雌 //	郎」	郎」	ガール ハ	, ,,	己 //	"	吉 //	吾 //	衆議院議員	明参議院議員	北海道議会議員	衆議院議員	古一顧問	_	男一雪印孔柴朱式会生			北海道	維都談役	l t		治と格と関係と対象の		" "	失 //	"	// E	ー 路 段 日	山田女			本酪農	長 路 女 会	国際農友	郎 北海道酪農協会
会	会	会	会	会:	会	会	会			名誉議			会	会												濺		(順不同)	4	会相談		顧		(解不同)	ì	会会	会 理	里理	理	理	THE		評議		講	元会	順音		常任理	副会
長	長	長	長	長	長:	長力	良			員			長	長												長		0	-	受 役	Ł	問		O	1	長力	長導	事	事	事		員」	員		師	長	問士	Ę		長
	菱田	三橋		S200 C	1223300				大宅		中馬		宮野	5500					トラムな		V 105	地崎		小平		岩本	赤城			左具藤近		9700,0304	町			窪 和 日				350000	16 0 E 0. 6			山無田派			太郎田田		三上上	沢
lane.	義		秀	朝)	藤 -	2 2	幸之	志:	tt:	義			嘉	与	吉:	武夫	周太-	甲子		徳	į —	宇三郎	弘		5565					西	1 7					佐智子	Εŧ	哲	力太	宗	01216	寅~	為 -	- 和	1	信	正象	隆 陽		潤
敏空	尚四	誠一	雄	男				N.			整	清	古士			L. II		E 1	. n	٠,٠,٠		nii e	eth.	-	п		徳へ			直蔵レジ			五	-	п	п.	维兹	雄	п	信	n			た 雄	稔	-	治 -			<u></u>
丁部興産株式会社	昭和電工株式会社	三菱化成工業株式会社	住友化学工業株式会社	大和証券株式会社		早川電機工業株式会社		松下電器産業株式会社	三洋電機株式会社	三菱電気株式会社	東京芝浦電気株式会社		古河電気工業株式会社	住友電気工業株式会社	11年11日の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の	朱式	吳西電力朱式会社 身房電力移民会社			北海道銀行	二和銀行	農林漁業金融公庫	良林中央金庫	日本中央競馬会	口本証券協会連合会	旨託協会	全国信用金庫協会	全国相互銀行協会 (1)	三国也了民了的公	は、ルフ連合会	生命保険協会	口本鉱業協会	口本民営鉄道協会	口本船主協会	口本油脂工業会	協	ロ本プラント協会	,	日本建設業団体連合会	口本製糖工業会	口本農業機械工業会	10.4	北毎道ホルスタイン協会コ准元首県包会	比每 <u>首</u> 格隻 8000000000000000000000000000000000000		組	樂等	化每道 华 脊 獎 養 為 司 且 合 車 合 公 北 海 道 厚 生 農 業 協 同 組 合 連 合 会	業	ホクレン農業協同組合連合会
社	社	社	社	社	社	往往	生:	会	社	相	社	社:	会	社:	会 :	会有	社 礼	上名	上 会	会	会	総	理	理事	会	会	会	会会	4	会会	会	会	会	会	会	会会	会会	会	会	会	会	会会	会会	È	会	会	会会	会会	会	会
長	長	長	長	長	長	長	長:	長	長	談役:	長	長	長	長	長:	長:	長士	Į.	を長	を長	: 長	裁	事長	事長	長	長	長	長	長士	長長	Ł J	長長	. 長	長	長	長力	長長	& 長	長	長	長	長力	長士	亳	長	長	長县	長 長	長	長
中	安	篠	長谷	安	井	早日	岡	松	井	高	土	駒	植	鍋	岡:	横	芦芦	大浦	英度	京島	,渡	大	片	清	瀬	久	小	加台	尹 [原ナ	て変	女 相	根	福	宮	松具	狗長	と安	本	武	宫	松;	宇都宮屋	届 安 孫 子	品	Ŗ	H II	疤 原	15	吉
安四	西正	島	川田	部志	深	川川海	田宇	下表	植社	杉平	光	井僻	松	島細	松成	山)	原	H D	京神	類 才 ※	辺曲	訳	柳	井	川	富	原針	藤広	京,	JI FA	角	内京	神	田	崎寅	田;	井川		間	智	地	原与	宮屋	量子を	沢	E	1 9	F E I	北 =	00000
	夫	雄	重	雄	大	次	完一郎	之助	郎	-	夫	郎	清	利	成太郎	夫	重	隆]	大郎 -	- H	東湖	i Me	古	Œ	美能留	夫	鉄五郎	治	隆	安三郎	维剂	青雄	自即	3 雄	寅四郎	伊三雄	郎 国	(人)	平	勝	, =	<u></u> 松	勤]	見り	7 司	ž	4 -	- 9	三七郎	治

酪農学科

志願者 入学者

短期大学

志願者

入学者

機農高等学校

志願者

入学者

396

190

昭和45年度入学志願と入学状況

農業経済学科

名89

120

農業経済学科の応募者数より合格者数の 多いのは第二志望からの合格者がある。

2

部

145

108

酪 農 経営科

106

名

獣医学科

名 688

70

部

144

123

名

入学者

名 1,173

380

計

289

231

290

営

名

鹿島建設株式会社

清水建設株式会社

三井東圧化学株式会社

大阪瓦斯株式会社

学生生徒の入学及び卒業状況



放牧がはじま た大学農場 0

昭	和	44	年	度	卒	業	生	数	٤	就	職	状	況	
機農高等学校														

1				
1				
1.				
2				

			9	光	聯	k	状	:	況	
	卒業生数	自	営進	学	官公庁	会	社団	体その	他	計
酪農経営科	110	7	7 2	人		. 8	人,		İ	110人
#1-	110	7	7 5	25		. 8	4			110

				意	£	職	状	況	
科	别	卒業生数	自	営進	me oto e	济会	A1 00	体その他	計

203

大

公

進

農業改

家畜人

新任(四、

付発令)

奈良ツ

土田

(兼短大)

山畑勝美

主事補(書記)

上野

明美 智子 昇格(四、

一付発令)

三田

保正

書記(事務補)

11

赤坂喜恵子 野村智恵子

岡田

卒業生数

短期大学

就職先種別

一般商計商事関係

新任(四、

一付発令)

さった方々に厚く感謝いたしま

ることができ、

玉稿をお寄せ下

貴重な酪農経営体験記を掲載す

ン両会長殿の玉稿と又卒業生の

本号には北農中央会、

ホクレ

規子

助教授(講師)

外格(四、一付発令)

主事補

三〇付発令)

あ

ح

が

き

樺沢 新谷

卒業生数	85人	81人	166人
------	-----	-----	------

- 部

2

290

290

ar u		u	100	Into	- HI.	
農	業	団	体	11人	2	1
乳鄉	(場別)	造販売	関係	6	0	
信客		京城.只		3	0	

	very last	Bala P	2.3.15	ALIA I	-		
学	核		職	員	2	0	2
福	祉力	布 設	関	係	2	0	2
農	粱	ţ	自	営	35	74	109
牧	場	実	習	生	6	1	7
	200			200			

留	学	実	習	生	0	1	1
進				学	5	0	5
そ		0		他	13	1	14
		計			85	81	166

農業改良普及員資格試験合格者	1部2部	4名1名
家畜人工授精師合格者	1部2部	10名 13名
	1 3500	0.4

毒物劇物収扱者合格者	1部2部	9名 13名
家畜人工授精帥合格者	2部	13名

短期大学 技 主事補 宗教主任 助教授 退職(四、

橋詰喜代子 上田真理子

新任(四、

付発令)

記

8	1	110
8		110
		-

Till-		
4		

8	290	
8	290	

酪 農 学 科 農業経済学科 175人

(事務補)

館越 日下

新任(四、

雅順

手

事業部

植苗農場長兼務

酪農大学教授

久米小十郎

"

伊藤

誠征

国家試験合格者	
良普及員資格試験合格	者
工授精師合格者	
Martin Hill are A Art ate	

毒物劇物取扱者合格者

29名

10

9

14

1

7

10

3

27

主事補 技師補 (技手) (書記) 助手 "

荻原久美子 光男 中央農場 短期大学酪農学校

三愛女子高等学校 新任(四、 書記(事務補) 昇格 (四、

長長長長長長長長長長長長長長長長長長長長

住友金属工業株式会社

旭硝子株式会社

新日本製鉄株式会社

日本軽金属株式会社

日本酪農機械株式会社

北海道農材工業株式会社

久保田鉄工株式会社

社社社社社社社社社社会会社社社社会社社

安日藤倉稲中土大米河北松大竹渥本吉野

西向本田山山谷川田合沢田林中美間川村

三成郎雄

日本石油株式会社

入阪商船三井船舶株式会社

田光興産株式会社

日本郵船株式会社

光村藤玉原口野中山

三菱地所株式会社

麒麟麦酒株式会社

王子製紙株式会社

帝人株式会社

株式会社

ヨン株式会社

ブリヂストンタイヤ株式会社

1

ハッ工業株式会社

武田薬品工業株式会社

社社社会社

長兵衛

長長長長長長長

石川島播磨重工業株式会社

方一元嘉一長義健良敬伊

アラビヤ石油株式会社

社社社社社会副社社社会会会社会

雪印種苗は雪印食品で

株式会社

工業株式会社

社社社社社会相社社社社社社会会会社会社

長長長長長長長長長長長長長長長長

永

浅

時渡

武次郎

大日本印刷株式会社

石橋財団法人

社 理

上星沢石北

正

会

三共株式会社

メント株式会社

ント株式会社

長長長長長長長長長長長長長長長長長

小岡武正若藤宮大南出上進児松田河田西

協同乳業株式会社

森永乳業株式会社

明治乳業株式会社

共栄火災海上保険株式会社

果亜燃料工業株式会社

三井物産株式会社 二菱商事株式会社

林内田田杉野城野部

北海製缶株式会社

トヨタ自動車工業株式会社

日本てん菜製糖株式会社

小松製作所

三愛女子高等学校 普通科 468名 志願者

酪農学校 (通信教育) 酪農科 1,002名、 農業経営科 724名、 104名、計 1,830名 外に近代酪農部受講生。

酪農学校(通信教育) 科 别 卒業生数

1	旋	PT	(333)
美	聚経 宮	1 科	455
3	庭	科	93
	計		1,547

獣医学科 計 95人 61人 329

業学 経科 獸医学科 計 14人

5

3

37

1

1

2

2 23

93

20名 31名

27人 0 0 10 9 31 66 0 2 6

17 0 40 0 15

12

0 0 51 0

2 9 3 15 0 5

10 60 309 59名 (合格率 100%)

助教授

昇格(四、

一付発令)

学長に任命する

(学長事務取

松豊川堀 安

大 北海道新聞社 日本通運株式会社 ダイヤモンド社株式会社

松

北海タイムス社 北海道放送株式会社 北海道テレビ放送株式会社 札幌テレビ放送株式会社

退職

(四、三〇付発令)

主事補 吉田

機農高等学校

昇格 (四、

鈴木

一付発令)

主事補 (書記) " 大川

一付発令)

一付発令)

三島

伴夫

昇格 (四、一付発令)

天井富士雄

主事補(書記)

技師補(技手) 井上

一付発令)

荒木 柴橋

た。農

